



小学校	国語	4年
-----	----	----

## 「白いぼうし」の読みの視点を子どもたちに示す

「白いぼうし」は、現実の世界から不思議の世界に行き帰ってくる中でストーリーが展開していく。その入り口と出口を、読みを深めるための視点として意識したいところである。

そのために、「白いぼうし」が集録されている「車のいろは空のいろ」の中の他のエピソード（例えば「山ねこ、おことわり」）と読み比べ、「白いぼうし」との共通点を探す。そうすると、教師側から、入り口と出口について教えなくても、子どもたちが現実と不思議の世界の境界について考えることができ、それを読みの視点とすることが期待できる。

### 参考

あまんきみこ 作 北田卓史 絵 (ポプラ社/ポプラポケット文庫)

「車のいろは空のいろ 白いぼうし」

- ・ちいさなお客さん
- ・うんのいい話
- ・白いぼうし
- ・すずかけ通り三丁目
- ・山ねこ、おことわり
- ・くましんし
- ・ほん日は雪天なり

「車のいろは空のいろ 春のお客さん」

- ・春のお客さん
- ・きりの村
- ・やさしいてんき雨
- ・草木もねむるうし
- みつどき
- ・雲の花
- ・虹の林のむこうまで
- ・まよなかのお客さん

「車のいろは空のいろ 星のタクシー」

- ・ぼうしねこはほんとねこ
- ・星のタクシー
- ・しらないどうし
- ・ほたるのゆめ
- ・ねずみのまほう
- ・ためき先生はじょうずです
- ・雪がふったら、ねこの市